

◎国土交通省寒地土木研究所と連携を模索せよ！



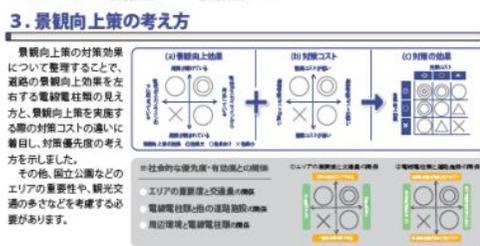
1. 背景と目的

まぶしいや晴れ空を背景とした景観向上の機運の進みを受けて、これまで主に市街地を対象として、電線電柱類が道路景観へ与える影響を改善するための景観対策が行われてきました。一方で郊外部における景観対策事例は少ない。近年では自治体などにおいて観光振興のためなど、景観向上のニーズが増加しています。また、土地利用の制約が小さい郊外部では、電線電柱類に関する多様な景観対策が考えられます。そこで本研究所では、これまで郊外部を対象とした景観対策や、道路利用の運用に着目し、資料調査やフィールド調査を通して課題を把握し、効果的な景観対策手法について考察を行ってきました。一方でこれらの対策を実際に適用するには、その対策に要するコストと景観向上効果を考える必要があります。本研究では、郊外部における電線電柱類の景観対策を行う場合の、対策手法の選択の考え方について考察しました。また、沿道景観タイプ毎に効果的な対策手法について検討するため、向上効果を把握する評価実験を行います。



2. 想定される景観向上策

郊外部において有効と考えられる電線電柱類の景観向上策の考え方や対策アイデアを示します。このように景観向上策は大きく「電線電柱類を見えなくする」と「電線電柱類の景観効果を軽減する」という2つの考え方で捉えることができます。



1月22日(水)東京都港区虎ノ門の(社)国土技術センターにて、前川会員が第9回土木学会 景観・デザイン研究発表会のポスターセッションにおいて、知り合った寒地土木研究所の松田総括主任研究員に面会の機会をいただきました。

寒地土木研究所では、来年度から一般市街地での電線類地中化の研究を始めとのこと。これまでの郊外型の研究よりも、さらに各方面への応用ができると期待している。

松田氏は、電線類地中化に造詣が深く、また、当然ながら国交省の電線類地中化関連の人脈も多い方です。当NPOとの連携にも前向きで、今後の具体的な関係構築が期待できます。国交省に提出した技術提案も、今回は共同での提案も可能とのことでした。

普段は札幌の研究所におられるとのこと、NPOで札幌に来てくださるとのことでした。共催でのシンポジウムなど、今後の展開が楽しみです！

上記の写真は同研究所のレポートです。寒地土木研究所のHPはこちら。<http://www.ceri.go.jp/>

日本の電柱・電線社会の現状について感じていることをエッセイとして綴り、お送り下さい。本会報の【随想】欄に掲載させていただきます 1000～1500文字、簡単な自己紹介(お仕事、住所等)とポートレート(顔写真)を添えて下さい。投稿をお待ちしています！事務局 井上 info@nponpc.net

私達が住む日本の空を、みんなで美しい空へ！

美空 ~MISORA~

第63・64号

発行日:2014年1月25日(土)

発行者:NPO 法人電線のない街づくり支援ネットワーク
理事長 高田 昇

【活動報告】2014年1月21日東京活動委員会(住友林業(株)本社会議室)
初参加で高橋様(新建築社)、安井様(NTT 東日本)の2名がオブザーブ参加。
理事会報告 次年度活動方針案等検討
話題提供:前川会員 第9回土木学会 景観・デザイン研究発表会 参加報告

【活動報告】12月度・2013年12月20日理事会(COM計画研究所)
◆技術開発委員会:井上(了)理事
国交省技術提案「狭隘道路における無電柱化事例分析と整備手法の確立」についての応募。受理された。結果は2月にわかる。

- ・背景:地中化が遅れている理由 資料参照
- ・研究の目的:狭隘道路における無電柱化の推進と整備手法の確立
- ・期間:2年間
 - 1年目は全国自治体へのアンケートと現地踏査、地中化整備をモデル化する
 - 2年目は低コストの施工方法を検討しマニュアルにまとめる。成果は国内外に発信する。
- ・研究統括:高田理事長 補助金申請金額:1500万

◆世論形成委員会:木村副理事長
11月27日のセミナーが好評、次回以降も技術的な内容のセミナーを検討したい。来年度は会員獲得を目指したい。

◆事業協力委員会:井上事務局長
見附市の地中化設計は落札できなかった。サンコーコンサルタントが受注。今後営業をかける予定。福知山の案件も進んでいる。来年度には実施設計の入札があるのではないかと。当NPOとしては、電線類地中化アドバイザーとして、協力したいと考えている。全農林さん案件の電線類地中化設計業務は完了した。

- ◆次回の理事会の日程
- 東京2月20日(木)19:00
～住友林業(株)会議室/経団連ビル8F
・話題提供:NTT 安井氏…地中化設計等
 - 大阪1月30日(木)18:00
COM 計画研究所
・次年度活動方針 その他



NPOから国土交通省へ技術提案。「狹隘道路における無電柱化事例分析と整備手法の確立」

12月に当NPOから国交省へ技術提案を行いました。採否は2月に通達されます。

1. 研究の背景・目的

【背景】わが国では、狹隘道路の無電柱化整備が遅れている。電線・電柱は、景観への悪影響、交通安全、バリアフリー、災害時における危険性等の問題を抱えている。

狹隘道路での無電柱化整備が進まない理由は以下の3点である。

- (1) 幹線道路タイプの技術・工法が適用しにくい
- (2) 高コストのため、道路管理者が消極的となる
- (3) 生活、営業がからむため、住民の合意が得られにくい



しかし、国内にはこれらを部分的に克服している事例が見られる。

【目的】国内の狹隘道路における無電柱化事例をソフト(住民・事業者との合意形成手法)、ハード(具体的な整備手法、技術課題)の両面について調査分析を行い、狹隘道路の条件・状況に応じた適切な構造かつ低コストな無電柱化整備手法を確立する。

2. 研究により期待される具体的な成果及び成果による道路政策への貢献

これまで、狹隘道路の無電柱化に関する体系だった研究は行われていない。

そこで、本研究は狹隘道路における低コストかつ実現可能な無電柱化整備手法の確立を目指す。

【本研究による具体的な成果】

- ・狹隘道路の状況に応じた構造物(管路部、特殊部、地上機器など、維持管理が容易、かつ既設埋設物に影響しない構造物)
- ・狹隘道路の状況に応じた低コストな施工法
- ・狹隘道路における無電柱化整備マニュアル(案)

【道路政策への貢献】

- ・これまで困難であった狹隘道路での無電柱化整備が可能となり、無電柱化整備率が向上する。
- ・質の高い道路空間が実現される。(空間の有効活用、バリアフリー化、安全性の向上)
- ・美しい景観の醸成が可能となる。



3. 研究の目標と達成時期

【研究項目】

- (1) 国内の狹隘道路における無電柱化事例調査・分析
- (2) 合意形成の事例調査・分析
- (3) 狹隘道路における現行整備手法・技術・工法の課題分析
- (4) 低コストかつ実現可能な無電柱化整備手法の確立

【達成時期】

第一段階(2014/4~2015/6) (1)、(2)、(3)実施

- ・全国30箇所
- ・アンケート、現地踏査により実施
- ・自治体、宅地開発業者を対象
- ・ソフト、ハード両面の標準モデル化

第二段階(2015/7~12) (4)整備手法確立

第三段階(2016/1~3) (4)とりまとめ

- ・狹隘道路の状況に応じた構造物
- ・狹隘道路の状況に応じた低コストな施工法
- ・狹隘道路における無電柱化整備マニュアル(案)



4. 研究の継続性、国際展開

【研究の継続性】

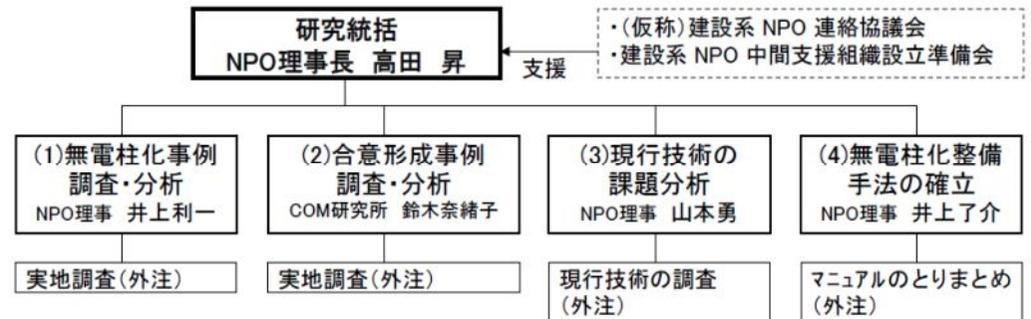
本研究成果を、各地域における無電柱化整備に適用して、企画・設計提案を行い、施工を支援する。その後、モニタリングを行い、ブラッシュアップすることで、一般整備手法としての普及を目指す。

【国際展開】

本研究の成果は、都市インフラの再整備が求められているアジア圏の中進国(タイ、マレーシア、韓国、中国主要都市など)で適用できる可能性が高く、ノウハウ・技術の提供、移転につなげることができる。

5. 研究の実施体制

受託予定者:NPO法人 電線のない街づくり支援ネットワーク



6. 本研究の特徴

これまで体系だった研究がなされていない狹隘道路での無電柱化に関する研究を、ソフト・ハードの両面から行い、広く普及しうる整備手法を確立。



短期的: 狹隘道路での標準化された無電柱化整備手法の普及。

中長期: 民間による技術開発の促進。



加速度的に狹隘道路での無電柱化整備が進展する。